

未来を語る『子ども会議』

毎年恒例になっています、夏休みに行く「子ども会議」。今年是对話の手法（フューチャーサーチ）を活用して未来を語り合いました。

☆フューチャーサーチとは？

その名のとおりに、未来を探る手法です。ホールシステム・アプローチという、ある課題の利害関係者を洗い出し、その代表者に集ってもらい、対話をしながら未来を創っていくというものです。この手法はユニセフではたいへん活用されているようです。総合計画などの計画に反映させる、子どもの意見を出し合うにも適しているようです。



☆やったことは？

参加したのは中学生12名と高校生4名。ほとんど初めて顔を合わせる子どもたちです。そして、16名全員で①年表をつくって過去をふりかえる②現在の誇れること、残念なことを考える③未来を描くというステップを踏んでいきます。



☆何が違うのか？

今までのまちづくりで行うワークショップでは、①フィールドワーク②良いところ、悪いところを考える③まちを良くする提案を考えるというのが定石です。

この子ども会議でもこの方法に近いことをしたこともあります。だからこそ違いがよくわかりました。

- ・ 過去をふりかえる事で、学校や友達と家族の関係が生活の大半を占めている中学生や高校生が、その町と自分や家族の関係・距離が近くなったと感じるようです。
- ・ 現状を見る目が変わりました。広い視点で町を見ることができるようです。
- ・ 未来を語る時も、単なる要望や要求ではなく自分がこの町でどう暮らしていくのかという視点で考えることができるようです。

☆初めての試みでしたが、「対話」の力、子どもたちの持っている力・パワーが盛り上がってくるのを感じた、とても充実した会議でした。